

I. 一般目標

代表的な消化器疾患の病態を理解し、診断から治療への基本的なプロセスを理解するために、

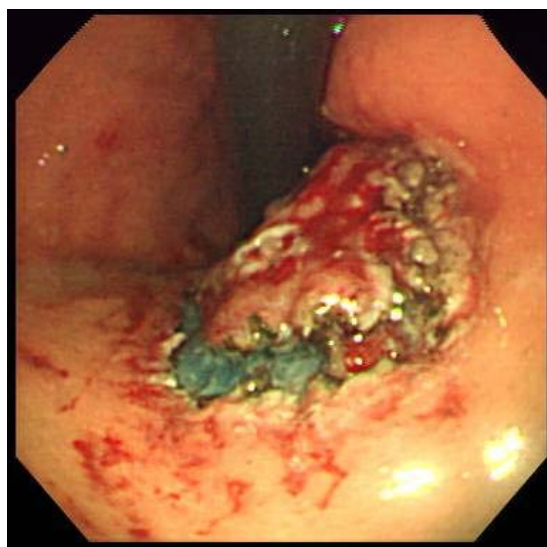
- 1) 問診・診察を実際に行い、記録できる。
- 2) 病状の解明に必要な検査を検討し、検査結果（血液・尿データ、各種画像所見等）を解析し、診断・治療へ至る道筋を理解できる。
- 3) 内視鏡による診断・治療の実際に触れ、基本的手技を理解できる。

II. 担当する診療科

消化器内科

III. 研修期間

1 カ月以上



早期胃癌のESD

IV. 指導スタッフ

	氏 名	職 名	医師登録年月	指導医講習
責任者・指導医	渡辺 美智夫	副院長・消化器内科部長 内視鏡センター長	1990.5	◎
指 導 医	仲井 培雄	理事長	1985.5	◎
	東 征樹	非常勤消化器科医師	1987.4	
	戸島 史仁	放射線科医長	2007.5	
	中村 仁音	消化器科医員	2008.4	

V. 基本的な指導方法

1. 消化器内科の外来受診患者の問診・診察を指導医・上級医とともに
行い、必要な検査を検討しオーダーする。
2. 消化器内科の入院患者を指導責任者とともに担当し、問診・診察を
ともに行い、実際の検査・治療に加わる。
3. 内視鏡像、CT・MRI・US画像の解析から診断への過程を学ぶ。
4. 内視鏡検査・治療に参加し、実際の経験を積む。
5. 内科病棟・集中治療センター・血液浄化センターで行われる総回診・
カンファランス（毎週木曜日・16時～）に参加する。
6. 内科・外科合同カンファランス（毎週金曜日・17時～）に参加する。
7. 院内の画像診断カンファランス（隔週の月曜日・17時～）に参加す
る。
8. 指導医・上級医とともに当直業務を行う。



VI. 基本的週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月			外来診療				内視鏡他処置の見学・介助			画像診断 CC (隔週)
火			外来診療				内視鏡他処置の見学・介助			
水			内視鏡検査				内視鏡他処置の見学・介助			
木			画像診断				内視鏡処置の見学・介助		内科総回診	
金			外来診療				内視鏡他処置の見学・介助			外科 合同 CC
土			内視鏡検査							

VII. 行動目標 (→ p12)

VIII. 経験目標 (→ p13~21)

A. 経験すべき診察法・検査・手技 (→ p25~27、必修科目内科の項参照)

B. 経験すべき症状・病態・疾患

- ・ 頻度の高い以下の症状を経験し、鑑別できる (→ p27、必修科目内科の項参照)。
- ・ 緊急を要する症状・病態を経験し、初期治療に参加できる (→ p27、必修科目内科の項参照)。
- ・ 経験が求められる疾患・病態

食道・胃・十二指腸疾患 (食道静脈瘤、消化性潰瘍、胃炎)、

小腸・大腸疾患 (腸閉塞症、炎症性腸疾患)、胆嚢・胆管疾患 (胆石症、胆嚢炎、胆管炎)、

肝疾患 (ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、アルコール性肝障害、薬剤性肝障害)、

膵臓疾患 (急性、慢性膵炎)、横隔膜・腹壁・腹膜疾患 (腹膜炎)

C. 特定の医療現場の経験 (→ p27、必修科目内科の項参照)



上部消化管内視鏡検査室